

1 文献名
『百年史 梶賀小学校』
2 学校名
梶賀小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
<p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>ちょうど満潮時にかかって吹き荒れた台風は、ものすごい高潮となって、湾内に押し寄せてきた。湾口から押し寄せる風と波は、引き下がることなく、蛇行してますますふくれ上がり、湾奥を目指して押し寄せた。（P88）</p>
<p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>梶賀の台風による被害は、『梶賀浦漁業組合陳情書』によると、全壊・流失住宅 18、半壊住宅 14、床上浸水住宅 19、床下浸水住宅 13、流失共同漁網及び資材倉庫 9、流失個人所有漁網倉庫 7、半壊共同施設（貯水庫、鮮魚販売所、漁協事務所）、半壊個人所有漁網倉庫 2、防波堤崩壊、網干場流失 3 箇所、など。（P89）</p> <p>特に、一部の海岸すじから奥の川の川口をはさむ両側一帯は、ほとんどが流失・全半壊の憂き目にあった。組合の階下は全くがらんどうになり、四、五人してやっと持ち運べるほどの大金庫は、宮さん前まで運ばれてしまった。</p> <p>波にもまれ家の前に突っ込んできた丸太に打ち当たり、けがをした。海岸に一人で住んでいた老石工が行方不明になった。（P88）</p>
<p>（3）復旧の様子</p> <p>梶賀浦漁業協同組合組合長から、伊勢湾台風の被害早期復旧と全額国庫補助を陳情した。（P89）</p> <p>漁協として組合員の救済に当たり、滋賀県八日市より瓦一万枚を購入し、組合員に対して後払いで譲渡、復旧資金として、大敷発行の証券を担保として最高 5 万円まで貸し付けた。漁業救済として共同漁船を建造し、組合員の営業の資とした。（P153）</p>
（4）体験談
（5）教訓など
（6）その他